

富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合
消防組織再編計画

平成27年12月

富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合消防組織再編計画

1 目的

消防は、地域住民が安全で安心して暮らすための生活環境の礎である。地域住民の生命、身体、財産を火災等の災害から守るとともに、被害を軽減することで住民の安心と信頼を得ることにある。

富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合消防本部の役割は大きく、各種災害に対して的確に対応できるよう資器材の高度化等による警防体制の充実とともに、建築物の大規模・複雑化及び高齢者施設の増加に伴う予防体制の強化が求められている。また、高齢化社会の進展に伴う救急出場の増加・交通事故等人命救助に対応するための救助救急体制の強化・充実、さらに 3.11 東日本大震災時の緊急消防援助隊出場を踏まえ、今後の広域災害にも対応する必要がある。

広域消防発足以来約半世紀を迎えるなか、都市基盤の整備状況や都市構造の変化等、消防行政を取り巻く環境の変化を加味し、消防行政を一体的に見直し、更なる住民サービスの向上に向け、少子高齢化に伴う広域圏内の人口減少と老朽化した庁舎の建替を含めた、今後 10 年間の富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合消防組織の再編計画を策定する。

2 現状について

昭和 47 年 4 月 1 日、富岡市消防本部、富岡市消防署及び下仁田町消防団常備消防部を改組し、富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合消防本部職員定数 63 人として発足する。翌昭和 48 年から昭和 52 年にかけて 4 分署 1 分遣所を設置し、1 本部 2 消防署 4 分署 1 分遣所体制が確立され、平成 27 年 4 月 1 日現在、職員定数 143 人と発展を遂げた。署所の建設年及び経過年数並びに平成 27 年度配置人員は表 1 のとおりである。

表 1

署 所 名	竣工年月	経過年数	配置人員
甘楽分署	昭和 48 年 3 月	42 年	13 人
一ノ宮分署	昭和 49 年 3 月	41 年	11 人
南牧分署	昭和 50 年 3 月	40 年	11 人
妙義分署	昭和 51 年 3 月	39 年	11 人
西牧分遣所	昭和 52 年 3 月	38 年	10 人
下仁田消防署	昭和 58 年 3 月	32 年	11 人
富岡消防署	昭和 59 年 3 月	31 年	39 人

昭和 52 年から 1 本部 7 署所体制により発展してきたところであるが、この間の火災救急の現状は、建築物の構造及び火気使用設備等の進歩により火災の件数は横ばいからやや減少傾向にあるが、救急件数は増加傾向にある。過去 10

年間の火災件数及び救急件数を表 2・表 3 のとおりである。

表 2 火災件数

年別 市町村別	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
富岡市	33	28	18	22	24	29	28	20	26	30
下仁田町	11	7	8	12	11	4	11	6	6	7
南牧村	1	2	1	0	3	3	1	0	2	1
甘楽町	9	11	8	6	4	4	10	3	5	7
合 計	50	48	35	40	42	40	50	29	39	45

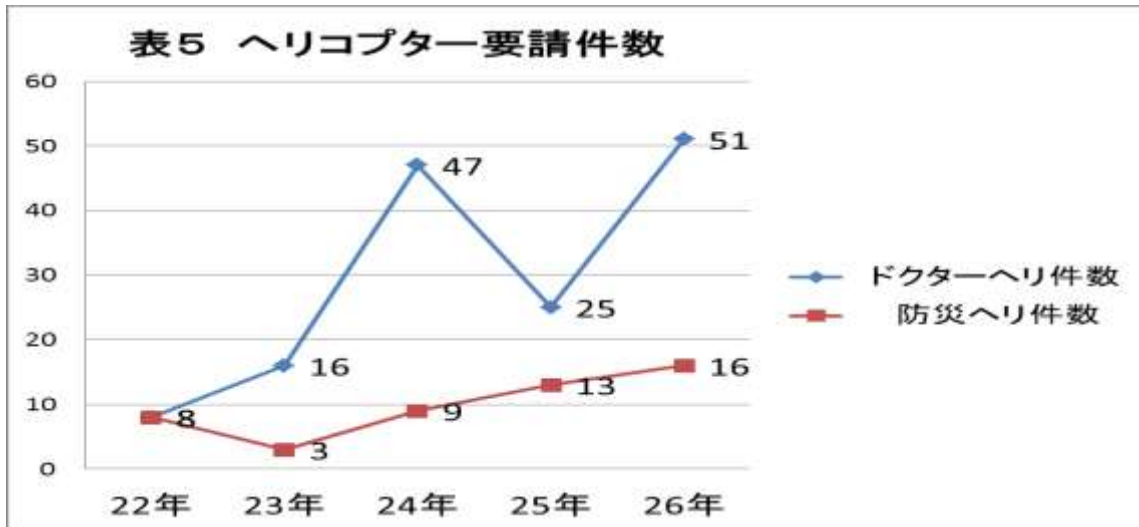
表 3 救急件数

年別 市町村別	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
富岡市	1,908	1,842	1,912	1,706	1,700	1,906	1,925	2,010	2,107	2,019
下仁田町	441	375	419	437	366	406	392	449	425	479
南牧村	170	174	153	183	149	160	145	141	141	149
甘楽町	405	368	364	324	327	361	379	376	402	388
その他	4	6	1	6	5	2	4	6	7	8
合 計	2,928	2,765	2,849	2,656	2,547	2,835	2,845	2,982	3,082	3,043

住民の安全安心のための消防における大きな変革は、救急救命士の誕生である。救急現場から病院までの間に簡易な応急処置だった救急隊が、応急処置の範囲が広がり薬剤投与まで行える救急救命士の誕生により、高度な資器材を積載する高規格救急車の導入とともに、医療機関と連携し円滑で高度な救命活動を行えることにより救命率の向上に繋がっている。(表 4 参照) 次いで、防災ヘリコプターとドクターヘリコプターの導入である。群馬県内 2 機のヘリコプターは、特に山間地の面積が広い富岡甘楽地域はヘリコプターの恩恵は多大であり、要請件数は年々増加している。(表 5 参照)

表 4 救命士の配置(平成 27 年 4 月 1 日現在)

配置署所	人 数
富岡消防署	8
甘楽分署	5
一ノ宮分署	4
妙義分署	4
下仁田消防署	4
南牧分署	4
西牧分遣所	2
合 計	31



3 課題について

消防力の基本は、人口である。昭和 47 年広域消防発足時からの人口の推移を表 6 にまとめてみると人口の減少が顕著であり、10 年後となる平成 37 年には広域消防発足時から約 24,000 人以上の人口の減少が予測される。

表 6 人口の推移（単位：人）

	昭和47年	昭和60年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年
	移動人口調査	国勢調査	国勢調査	推計	推計	推計
富岡市	51,167	53,768	52,070	50,236	48,208	45,940
下仁田町	17,010	14,237	8,911	7,852	6,909	6,036
南牧村	7,379	5,089	2,423	2,031	1,679	1,358
甘楽町	13,636	14,055	13,618	12,906	12,210	11,481
計	89,192	87,149	77,022	73,025	69,006	64,815
指数	100	98	86	82	77	73

※ 推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成 25 年 3 月）

出場体制は、表 1 に示す配置人員 13 名以下の署所では当務人員が少なく、救急車が出場すると、車両があっても次の出場ができない乗換運用出場であること。警防調査等出向する際、消防車と救急車 2 台で出向し出場体制を取りながら出向しなくてはならず、署に残る残留者が不在になり受付業務に支障をきたしていること。職員研修へ参加のため当務人員確保に苦慮している事実。さらには幹線道路への出場導線の不良署所が見られるのも事実である。

消防庁舎の老朽化が特に顕著なのが表 1 に記載の経過年数 42 年の甘楽分署を筆頭に、一ノ宮分署、南牧分署、妙義分署、西牧分遣所の 5 庁舎である。特に給排水衛生環境の劣化が激しいのと、車両の大型化による車庫容量が不足になっていること。さらには女性職員用仮眠室、トイレ等の女性用環境整備の遅れである。

次に、表 7 により群馬県内西北毛地域の 5 消防本部を比較し、管轄面積の広

い利根沼田広域及び吾妻広域と富岡甘楽広域の署所の配置を示すと図1のとおりであり、富岡甘楽広域の配置署所を拡大すると図2のとおりである。

表7 消防本部の比較

	富岡甘楽	多野藤岡	利根沼田	吾妻	渋川
管轄面積(km ²)	488.52	534.99	1,765.75	1,278.27	288.86
管轄人口(人) H27年4月1日現在	72,543	95,671	83,501	56,629	114,355
署所数	7	5	4	5	5
職員数 (再任用除く)	142	135	139	108	161
救急車台数 (予備車含む)	9	8	6	5	7
救急件数 H26年中	3,043	4,018	4,548	3,400	5,391

図1 利根沼田広域・吾妻広域・富岡甘楽広域の署所の配置



図2 富岡甘楽広域7署所の配置

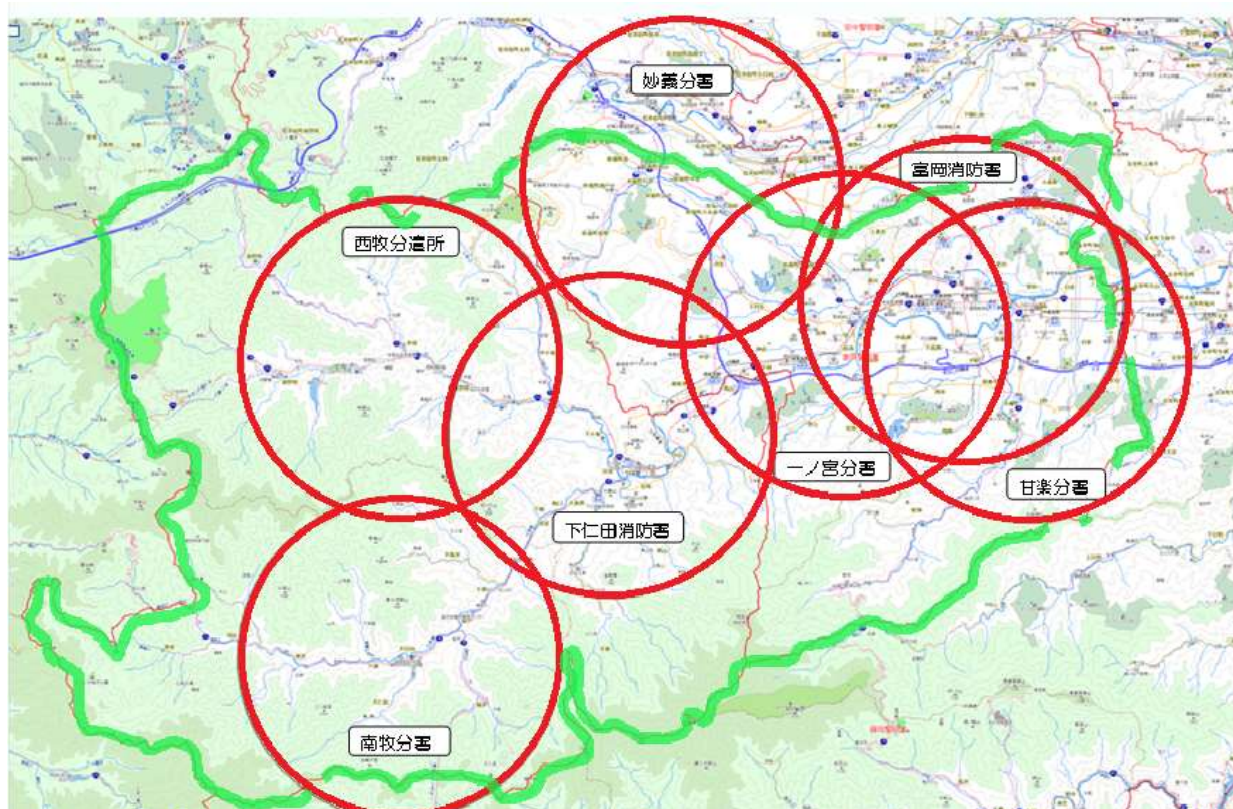


表7で示すように富岡甘楽広域消防を他の消防本部と比較すると管轄面積、管轄人口の数値に対し署所の多さと、救急車の台数に対して救急出場の件数が少ないことが見て取れる。また署所の配置では甘楽分署・富岡消防署・一ノ宮分署が近接し重複地域となっている。

また、各地域の消防団員の諸問題として、団員確保と団員の職業により昼間の出場体制が問題となっており、今後常備消防のはたす役割はますます重要となっていく。

4 新体制の構築

広域住民の安全で安心できる生活を確保するため、出場体制の強化、庁舎の老朽化、人口の減少を踏まえ消防署所の統廃合を実施する。

具体的には、現在1本部2署4分署1分遣所の7署所に分散されている消防力を、総務省消防庁から示されている「消防力の指針」を基本とし、市街地、準市街地を形成している構成市町村に1つの署を配置するものとし、併せて、消防力の地域バランスの適正化と消防力の強化を図るため、平成28年度から再編整備を始め10年の期間をもって1本部4署に再編する。

始めに、整備を行う署所は、設置から42年経過し、老朽化が著しい甘楽分署とし、平成30年度には建替え工事着手、平成31年度に開署とする。

次に、富岡消防署の建替えに着手する。

平成30年度から手続き等を開始し、平成33年度には竣工。その後34年度の開署にあわせしーノ宮分署を閉鎖し、甘楽分署を13名体制から23名体制とする。

つづいて平成35年度には、南牧分署を建替え、平成36年度に開署。次いで平成37年度には、下仁田消防署を建替え、平成38年度に開署し、併せて妙義分署・西牧分遣所を閉鎖する。

これにより富岡消防署55人体制、甘楽分署23人、下仁田消防署23人、南牧分署11人体制の組織となり、富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合消防本部は、1本部4署体制となる。(表8新体制職員数、図3新4署の配置、表9建設スケジュール、表10車両配置台数参照)

なお再編計画の実施にあたっては、広域担当課長をメンバーとした仮称「富岡甘楽広域消防再編委員会」を発足し、再編計画を実行する中で様々な諸問題等を検討していくこととする。

表8 新体制職員数

	課及び署	職員数(人)	救命士数(人)
本部(30)	総務課	7	0
	予防課	5	0
	警防課	4	0
	指揮隊	6	0
	通信指令室	4	0
	共同指令センター	4	0
署(112)	富岡消防署	55	13
	甘楽分署	23	8
	下仁田消防署	23	8
	南牧分署	11	4
合計		142	33

※総務課は防災航空隊へ派遣1名を含む

図3 新4署の配置



表9 署所建設スケジュール

	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度
甘楽分署	→			新甘楽分署開署							妙義分署・西牧分遣所を閉鎖し、4署スタート
富岡消防署			→				新富岡消防署開署				
一ノ宮分署							一ノ宮分署閉鎖				
妙義分署											
下仁田消防署								→			
南牧分署						→			新南牧分署開署		
西牧分遣所											

→ 矢印マークは、用地の確保、設計、建設のスパンを示す

表 1 0 車両配置台数

現行署所の車両台数		
署所名	車両	台数
富岡消防署	救急車	3
	ポンプ車	1
	水槽付消防車	2
	救助工作車	1
	はしご車	1
甘楽分署	救急車	1
	水槽付消防車	1
一ノ宮分署	救急車	1
	水槽付消防車	1
妙義分署	救急車	1
	水槽付消防車	1
下仁田消防署	救急車	1
	水槽付消防車	1
	可搬積載車	1
南牧分署	救急車	1
	ポンプ車	1
西牧分遣所	救急車	1
	ポンプ車	1



再編後の署々の車両台数		
署々名	車両	台数
富岡消防署	救急車	3
	ポンプ車	2
	水槽付消防車	2
	救助工作車	1
	はしご車	1
甘楽分署	救急車	2
	ポンプ車	1
	水槽付消防車	1
下仁田消防署	救急車	2
	水槽付消防車	1
	可搬積載車	1
南牧分署	救急車	1
	ポンプ車	1

5 再編の効果

署所の再編に伴い、消防隊の現場到着時間については、多少影響を受けることは事実ですが、消防隊員及び消防車両の充実、各署の適正配置等によって、最低限の影響にとどめることが可能である。

新体制では、表 8 に示すように人員が充実され、また表 1 0 で示した車両配置により、消防学校入校等長期研修者及び休暇者等が生じた場合でも、効率的な活動が可能となる。

近年、消防の対応すべき事象は、火災、救急、救助から大規模な自然災害など多様化、高度化し、さらに少子高齢化の急激な進展のなか、これらに対応できる適切な体制整備を図る必要があることから、このたびの再編計画を実施することにより、分散している消防力を適正規模に配置することで、より効果的な、消防組織の実現と運用が可能となり、富岡甘楽地域の消防体制が強化され、災害対応能力の充実につながるものである。

今回の再編計画は地域住民のより一層の安全安心の礎となることと確信している。